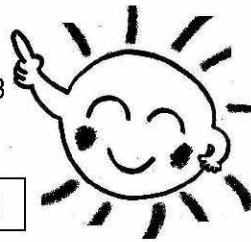


SUNSHINE

第24号 2008年 2月発行
 有限会社 太陽開発
 鹿児島市荒田2丁目43-19 Tel.099-255-3623
 E-Mail master91@po.taiyou1991.com
 URL http://www.taiyou1991.com/



太陽開発 鹿児島

検索 クリック!!

賃貸マンション(オーナー様)をご紹介します!!

田畑アパート



A棟



B棟



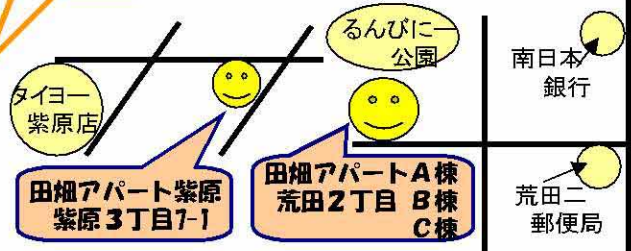
C棟



紫原

紫原は、タイヨまで徒歩1分☆バスも多く通っているので交通も便利です♪(^o^)

荒田2丁目と紫原にある田畑アパート。荒田のアパートは鹿児島大学に近いので、学生さんが多く住まれています。オーナー田畑様のご好意で、中国からの留学生の方も多く、お家賃もお手頃なので、皆様長くお住まいです♪買い物・郵便局・銀行に近く、交通も便利☆☆家主様も近くにお住まいなので、とてもアットホームなアパートです(*^-^*)



♪紫原は敷地内に駐車場もあります♪

『人間だけが笑える』

最近、笑顔の効用についての話題をよく目にします(私自身が必要性を潜在的に感じているのかもしれない)。

先日も、新聞に「現代の医療現場では笑いが体の免疫力を上げたりする仕組みが注目されるようになった」と出ていました。しかし、科学で笑いの効用について解明される前に、先人は笑いが健康と運命を左右する大切な行為であると認識していたようです。健康の面からは、笑いはその疲れた心や体をほどよく調和させるように、人間に与えられた行為であり、又、運命に関しては、「笑うことは最も簡単な成功方法である」「和やかな笑顔の漂うところに、運命の女神はその慈愛の手を差しのべる」という諺もあります。

笑顔を失うことにより、健康をそこない、自分の運命も閉ざしてしまいます。それほど笑顔・笑うという行為は人間にとって大切であります。最近読んだ本に、「人は楽しいから笑うのではない。笑うから楽しくなるのだ」とありました。笑うか笑わないかは結局、自分自身の問題であるし、健康を維持するのか、よい運命を導くのかも自分自身の行為によるということです。みなさんも是非自分から笑ってみてください。

この文章を読んだ家人のひと言「先ず隗より始めよ」とのありがたい言葉でした。

騎射場探訪

のん処

風車 (かざぐるま)

弊社がお世話になっている「騎射場」周辺のお店のご紹介第13弾!!

御主人 奥様 小湊様



風車様♪太陽開発♪
 ☆おすすめメニュー☆

Best1 黒豚の黒煮 Best2 サバ寿し Best3 すき焼き豆腐



口の中でとろけるくらいとろとろに煮込まれた黒豚は絶品!!☆この黒いソースにも秘密が...☆▽☆



表面を炙るか炙らないか...どちらも捨てがたい!!脂がのついていて、醤油をつけずに食べるのが◎



牛肉か豚肉が選べます♪♪美味しく、すぐに全部なくなっちゃいました☆(▽)

騎射場電停から徒歩4分程にある『風車(かざぐるま)』さま☆騎射場でお店を構えられて、現在創業12年半を迎えられました。御主人は枕崎出身で、新鮮なかつおは枕崎から仕入れています。奥様は東京出身の方で、修行をされ今のご主人とこちらのお店を創業されました☆お料理は手の込んだものばかりでとても美味☆掘りごたつとカウンター席のある、木の温もりを感じる暖かなお店です♪♪(●^o^●)



更におすすめメニュー
 「えびせんべい(手作り)」・「豚足」
 えびせんべいは1匹のえびを100回も叩いて伸ばしたものを1枚のせんべいにしたものを丸ごとエビを楽しめます♪♪豚足は外はパリッとしてのに、中はぷるぷる☆一人一つずつ食べてしまうくらい本当に美味しかったです♡

今月の一冊 見知らぬ妻へ

浅田 次郎

(作家・日本ペンクラブ会員)



1951年東京生まれ。1995年『地下鉄(メロ)に乗って』で吉川英治文学新人賞、1997年『鉄道員(ぽっぽや)』で直木賞、2000年『壬生義士伝』で柴田錬三郎賞を受賞、2006年『お腹召ませ』で中央公論文芸賞、司馬遼太郎賞を受賞。他にも映画やドラマの原作も多数。

新宿・歌舞伎町で客引きとして生きる花田章は、日本に滞在させるため偽装結婚した中国人女性をふとしたことから愛し始めるのだが... (表題作)
 才能がありながらもクラシック音楽の世界を捨て、今ではクラブのピアノ弾きとして生きる元チェリストの男の孤独を描いた『スターダストレビュー』など、やさしくせつない8つの涙の物語。
 (光文社文庫・単行本bookカバーの橋爪大三郎氏の解説より)

去る2月1日大好きな浅田次郎氏の講演会に主人と二人で行って来ました。自由席でしたので、早くに並んで一番前の席で拝聴する事が出来ました。演題は『近代中国と日本』。くしくも、この前日「殺虫剤の成分の混入した冷凍ギョーザ」のニュースが流れ、浅田氏もこの問題にも触れ、中国と日本の関係について興味深いお話をして下さいました。しかし、講演時間一時間はあまりにも短く、おそらく御本人も語り尽くせず、私共も名残惜しく、講演終了となってしまいましたが、それでもとても楽しい時間を過ごす事が出来ました。

さてこの流れでは、当然中国を舞台とした『蒼穹の昴』や『中原の虹』をご紹介すべきなのでしょうが、恥ずかしながらまだ読んでおらず、はてどうしたものか...

もともと、この講演会がなければ2月はバレンタインデーにちなんで思いっきりsweetな恋愛小説を紹介しようと考えていましたので、浅田次郎氏のsweetな作品を紹介する事にします。

しかしこれがまたなかなか難題で、ずっと以前に読んだ『見知らぬ妻へ』に白羽の矢を立て、主人に贈ったはずのチョコレートを開き、コーヒーとチョコをお供に早速読み返してみました。

作品は8つの短編恋愛小説からなっていますが、解説で橋爪大三郎氏が書かれているように、「恋愛小説の体裁をとっているが、その実質はむしろ、孤独小説とも言えるべきではないか」。そもそも浅田氏の作品にsweetを求めるのが無理な話で、甘さ、優しさの中に巧みに盛り込まれた「苦さ」「切なさ」こそが魅力で、当作品もその魅力に溢れています。そう言えば、このチョコレートもsweetよりbitterの方が美味しく感じられるようです。

